

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M212W302	看護 OSCE (Nursing Practice Objective Structured Clinical Examination)	専門教育科目 統合分野

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	3	後	集中	末弘理恵 他, 看護学系および臨床医学系全教員 内線: 5053 e-mail: suehiror

【授業の概要・到達目標】

看護 OSCE (Objective Structured Clinical Examination ; 客観的臨床能力試験) は、臨地実習に向けた基礎的な看護実践能力の修得を目指す。既修の知識と技術をもとに、対象や状況に応じた確実な看護実践 (ヘルスアセスメント、看護技術) に向け、主体的、能動的に学修に取り組み、客観的評価を受けることにより自己の課題を明らかにする。本科目は、看護を提供する場 (病院・施設・在宅・地域) におけるすべての健康レベルの人々を対象とする。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 対象理解のためのヘルスアセスメントができ、得られた情報の意味をその場で判断できる。	◎	○	○				
2. 対象の状況を捉え看護の方向性を説明できる。	○	○	◎				
3. 原理原則を踏まえ、対象や状況に応じた看護を実践できる。	◎	○	○				
4. 倫理的配慮のある関わりができる。		○		◎			○
5. 客観的評価を受け、自己の課題を明らかにすることができる。				○		◎	○

【授業の内容】

回数	日程	学修テーマ	学修内容	方法
1	10月1日	事例・課題の提示	本科目の学修内容、学修の仕方 事例・課題の提示	講義
2 ・ 3	3・4・5限	事例の理解	対象の健康状態の理解、日常生活状況の理解と具体的なイメージ化 必要な知識の整理	ワーク (個人学習・グループ学習)
4 ・ 9	10月23日 10月24日 1・2・3限 もしくは 2・3・4限	ヘルスアセスメント 看護の実践	適切なコミュニケーション 対象の状況に合わせた正確な測定と観察 ・バイタルサイン測定 ・フィジカルイグザミネーション ・ソーシャルサポート (フォーマル/インフォーマル) アセスメントを含めた報告 実施する看護の方向性の明確化 対象や状況に応じた看護の実施 実施時の留意点の説明	実技試験 (個人)
10 ・ 11	10月25日 1・2限	振り返り	一連の看護実践の振り返り 臨地実習に向けての課題の明確化	ワーク (個人学習・グループ学習)

【アクティブラーニングの内容・その工夫】

A: 知識の定着・確認	○	時間外学修 (予習、復習)、実技試験、振り返り
B: 意見の表現・交換	○	ディスカッション
C: 応用志向	○	ロールプレイ、シミュレーション、ケースメソッド

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	事前学習、実技試験の準備、バイタルサイン測定技術・フィジカルイグザミネーションの反復練習 (計 11h)
事後学修	実施の振り返り、反復練習 (11h)

【教科書】 教科書は指定しない

【参考書】 参考書は指定しない

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	到達目標 1	到達目標 2	到達目標 3	到達目標 4	到達目標 5
実技試験 (個人)	80%	○	○	○	○	
学修記録 (課題の明確化)	20%					○

【注意事項】・4~9回はユニフォーム、ナースシューズを着用する。聴診器、時計(秒針付)、ペンライトは演習時持参する。

【備考】

担当教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験	保健師、助産師、看護師、医師	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無		
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした教育内容	保健師、助産師、看護師、医師としての経験から看護実践に必要な知識・技術を抽出し、事例の作成、実技試験の内容・評価、学修プロセスの支援を行う。	